

ラオスのこども通信

32号
2004年12月発行

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603

特集 絵本の出版、100 作品 50 万冊 達成！……4

ラオスの子どもたち……2

活動の報告 読書推進運動……6

活動の報告 プロジェクトの動き……7

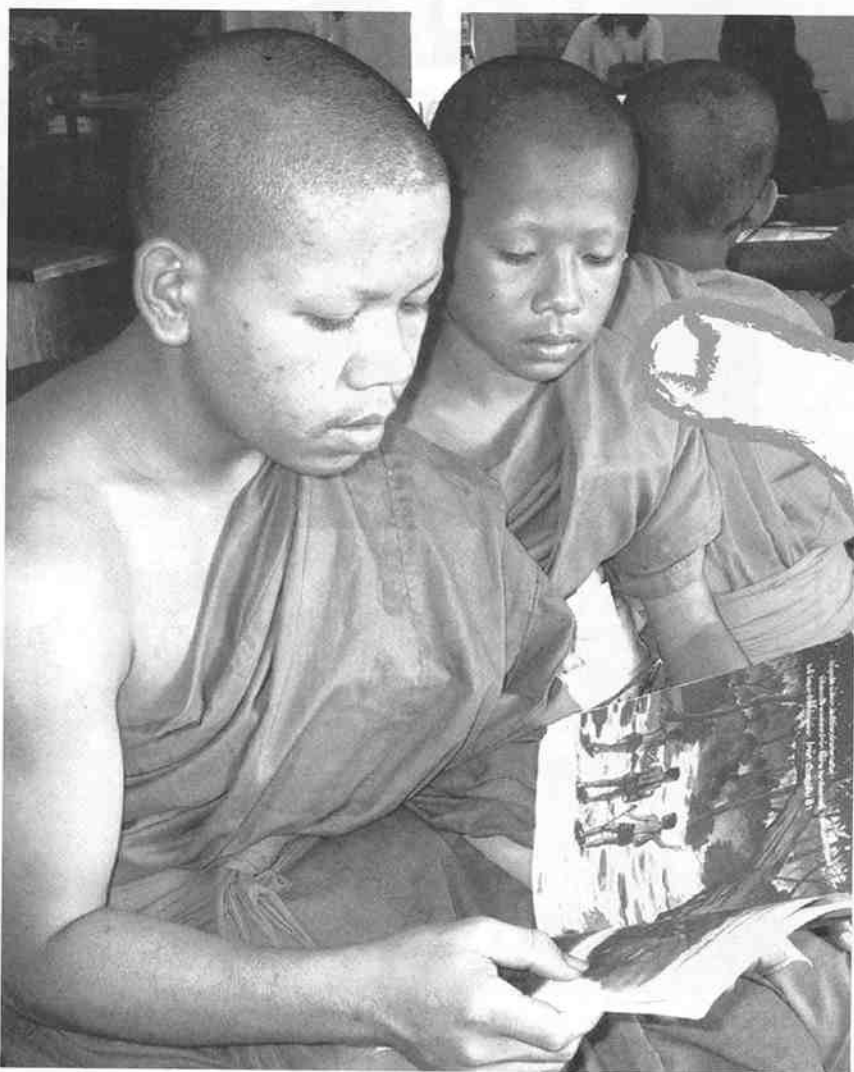
国内の活動／ボランティア掲示板……8

お知らせ ラオス語おもしろ話……9

ヴィエンチャン事務所／東京事務所から ラオス便り……10

NGO ネットワーク……11

活動に参加し支えてくださったみなさん……12



ヴィエンチャン事務所で本を読む僧

ラオスで子どもの 本をつくり続けて

会が、ラオス語の本を出版して、
100作品となりました。

今号では、そのすべてを、ご覧いた
だきます。

第一作『ピックリ星』20000冊を出
版したのが1990年。以来

今日までに出版した約50万冊の本
が、学校や、会が支援する子ども文
化センターの図書室などで、子ど
もたちに読まれてきました。

これからも、ぜひ、ラオスでの出版
活動をご支援ください。

特定非営利活動法人ラオスのこども
は、子ども自らが学ぶ力を伸ばし
ていくために、ラオスで、「絵本、紙
芝居などの出版」「図書室」「集い楽
しみ学べる場」などの支援を行っ
ています。

特集

絵本の出版、100 作品 50 万冊 達成！



これまで出版した本 100 冊 ピックリ星 孤児と友だち 孤児と小さいおばけ 正しく走ろう 皆で協力凸凹を直す 良いことを言えば役に立つ 欲
 ヨコ 孤児と友だち 孤児と小さいおばけ (第2版) ソムボーンの優しさ 皆で協力凸凹を直す (第2版) みんなで木を植えましょう 良いことを言え
 ば役第1巻 シンサイ第2巻 マホーソット博士 マホーソット博士 (第2版) ヴィエンチャン流詩の書き方 クンボロム ワイデック3月号 ワイデック7月号 ヲ
 第1巻 (第4版) シンサイ第2巻 (第4版) 賢いのはどっち? 子ガエルやーい 絵とき辞書 (第2版) なんのどうぶつ? 文字絵本1 なんのどうぶつ? ヲ
 トットちゃん 雨もり 孤児と小さいおばけ (改訂版) お星さまからきた文字絵本3 なんのどうぶつ? 文字絵本1 (第2版) なんのどうぶつ? 文字絵本2
 賢いのはどっち? (改訂版) 正しく走ろう (改訂版) ほくを捨てないで 孤児と歌をうたう狐 (改訂版) シナーとユウ トゥーノイヤー 孤児と魔法のドラ
 近い森 おやゆび小僧 孤児とその妻 (改訂版) マニユイとチャンタイ 葉草売り なんのどうぶつ? 文字絵本1 (第3版) なんのどうぶつ? 文字絵本:

教科書の普及が十分でなく、卒業後も本にふれる機会がほとんどないラオスで、
当会は、学校での読書推進活動を進める中、ラオス語の図書の出版に力を入れてきました。



出版ご支援をいただいたみなさま

石原静子 伊藤忠記念財団 絵本1冊運動 沖電気工業
Canada Fund キッコーマン キヤノン 国際ボランティア貯金
CIDSE 指定募金 JICA開発パートナー事業 生活クラブ
草の根市民基金 世田谷南ロータリークラブ 地球市民財団
東京海上火災保険 東京国際交流財団 東京都 日本国際
協力財団 日本青年会議所 豊前の国建設クラブフランス
語協力センター ミクランニング 茂木陽子 山田国際財団
ユニセフ ユネスコ ラオスに環境の絵本を送る会 連合

雷魚 穴の中に落ちたヒヨコ うさぎとライオンの王様 お姫様の鳥 孤児と歌をうたう狐 子猫 少女ムアンドーム ヴィエンペット少女 椰子殻のポックリ ハエの駆除 黄色い羽根のヒヨコ (第2版) 子リスはどこに シンサイ第1巻 シンサイ第2巻 ペンニャンなぞなぞ 孤児と小さいおばけ合本 こたわぎ集 民話集 金色の猫 シンサイ第3巻 シンサイ第4巻 シンサイ第5巻 孤児キートン クンルーとナンオア ラオス語の歴史 絵とき辞書 シートマンロー チャオパッサラート マホーソット博士 (第3版) 孤児と小さいおばけ (合本) シンサイ本2 数字絵本 絵とき辞書 (第3版) タオカムとつばめ 絵とき辞書 (第4版) たまごを抱かないアヒル クンルーとナンウア (第2版) 良いことを言えば役に立つ (改訂版) 窓ぎわの月 ソムボーンの優しさ (改訂版) ふしぎな4人の兄弟 ウェンブンヤボンを偲んで The Dream Comes true ラオスの歴史 Lao Animal Story (ラオス語版) Lao Animal Story (英語版) 王子さま 先生は誰? 紙芝居ハンドブック 孤児と小さなお化け (改訂版) 大亀ガウディの海 ふしぎな4人の兄弟 (第2版) 窓の外に見えるもの 水のぼうけん お空にいちばん高いところ ぼくはどこへいく? シートマンロー 出版にご指導をいただいたみなさま 井上博子 尾崎曜子 大竹雄介 長野ヒデ子 やべみつのり わかやまけん (敬称略)

絵本の出版、100 作品 50 万冊 達成！

●本がない。ならばつくろう

1990 年「国際識字年」。この年から会は出版を開始しました。

小学校には先生用の教科書があるのみ、子どもたちは先生が黒板に書いた文を書き写す、そんな授業が多く学校で行われてきました。また、町には書店がなく、新聞や雑誌を読む人も限られているのがラオスです。

「ラオス国内すべての小学校に図書箱を」というラオス政府の取り組みに、会は 1992 年から協力を開始しました。そこで、すぐに壁にぶつかります。図書箱というのは、本が 140 冊ほど入る木の箱です。箱をつくっても中に入れる本がラオスにはない、どこにも売っていないことに気づかされたのです。

そこで、93 年に 20 作品、94 年に 15 作品を出版しました。本と呼ぶよりは、ほとんどが簡素な印刷物といった印象のものでした。

●作り手がいない。ならば育てよう

ここでまた壁にぶつかります。子どもの本の作り手がきわめて限られているという事実です。

そこで今度は、「作り手を育てよう」という取り組みが始まります。日本の絵本作家の方々の協力を得て、1995 年にラオスで絵本づくりのセミナーを開きます。集まったのは絵心のある人、幼稚園や小学校の先生、そして 1994 年にスタートした子ども文化センターの職員など。初めて絵筆を手にした人もいました。このときの作品を合作にして 1997 年に『文字絵本』を出版。文章に添えられた挿絵ではなく、絵が主役である「絵本」が生まれたのです。

2000 年には作り手の発掘をめざして民話絵本コン

クールを開催。「あなたの村の民話を絵本にしませんか」と広く呼びかけ、応募作品の中から 3 作品を選び、日本の絵本の編集者の協力を得て、ラオスと日本とを通信添削のように行き交いながら完成度を高めていく作業をし、2002 年に出版しました。

●多彩な作品を出版

これまでに出版された作品は、ものがたり、民話のほか、ラオスの歴史、衛生や交通安全や環境保護を呼びかけるもの、工作の本、紙芝居の手引書と多彩で、マンガも 1 作品あり、翻訳では『窓際のトットちゃん』『星の王子さま』などがあります。子ども用ラオスの国語辞典『絵解き辞書』は繰り返し増刷をし、小中学校で利用されています。

これらの出版は、個人の方、企業、財団、政府機関、他の国の機関など様々なご寄付によって実現しています。現在、出版を希望して多くの作品が会に寄せられており、作家と編集者による編集委員会で検討を行っています。

●出版プロジェクトの向かう先

出版について、会が数年前から計画に盛り込み、いまだ実現にいたっていないことがあります。それは、「本は買うもの」ということ。これまで、会は学校など図書室に置かれる本を提供してきましたが、今、書店の経営をめざしています。もちろん、NGO なので利益を追求することが目的ではありません。出版事業費を確保しながら、買って自分のものにする喜びというものを広げたいと考えています。そうすることで、本の市場も育っていき、作り手、読み手が育っていくことをめざしています。

私の宝物、絵本

スイトブラサイ ペンパイワン(スーザン)

スーザンさんは、ラオスからの留学生です。10 月に日比谷公園で行われた国際協力フェスティバルでは、ボランティアとして活躍してくれました。ヴィエンチャン出身で、図書室など読書の機会に恵まれたとのこと。

子どもの頃から本が大好きで色々な本を読んだ。「どの本が好き？」と聞かれたら、「全部」と答えるだろう。先日「ラオスのこども」で絵本を見た時、懐かしくて思わず手にとってしまったほどだ。

好きだった絵本はラオスの物語とは限らず、ロシアや日本のもある。例えば「Toop Noy」(小さな家に住む動物たちのあふれる友情話)と「Nang Noi Rai Chai」(友情を大事にしない飽きっぽい女の子の話)はロシアのだ。外国の絵本は本の色や形がきれいで、中でも「飛び出す絵本」は珍しくて何度も読んだため、内容を今でも思い出せる。

大きくなってからはラオスの県に関する絵本をよく読んだ。絵本は恩義、友情、誠実などを教えてくれた。残念なことに色が無く、もっときれいだったらよかったと思う。

中学三年の時に、「かざじそう」を読んで泣いた。「日本のお爺さんやお婆さんはやさしいな」と思い、日本に行ってみたくなった。

絵本は子どもにとってなくてはならない。自分がそれらの絵本から影響をたくさん受けたとも言える。私はもし絵本を読まなかったら、きっと今の私と別人になっていると思う。絵本は薄いのが、子どもに色々な影響を与えてくれる。本屋で絵本を見かけると、日本の子どもたちをととても羨ましく思う。ラオスの子どもたちもたくさんいい絵本を読めることを願ってやまない。

ヴィエンチャンの 学校図書室では

ヴィエンチャン、ノンボトン小学校。

図書室にいる子どもたちに、会のスタッフ、バン
オーンが聞きました。

バンオーン：一番好きな本は？

子：『孤児と小さいお化け』『孤児とその妻』『シ
ナーとユウ』『くすりやさん』『11匹のねこ ふくろ
のなか』『3びきのやぎのがらがらどん』『てぶくろ』
(人気の高い順です。4 番目までは、ラオスの
作家の作品を会がラオスで出版した作品。5 番
目からは、日本語の絵本にラオス語を貼って日
本から送ったもの。いずれも日本のみなさんのご
支援によるものです)

バ：図書室に来て楽しいことは？

ある日の 子ども文化センターにて

ヴィエンチャンの子ども文化センター。

毎週来ている 12 才と 13 才の女の子 2 人に、会の
スタッフのチャンシーがインタビューしてみました。

チャンシー：どうしてここに来てるの？

子 1：遊んだり本を読んだり、いろいろな活動
ができるし、新しい友だちや先生に会えるから。
家にいるより楽しい。

子 2：家の近くは、こんな場所なんてない。

チャ：一番好きな活動は何？

子 1：みんな好きだけど、一番は踊りかな？

子 2：私は絵を描くのも大好き。

子：新しいことを知ることができる。

子：友達と遊ぶのが楽しい！

子：本を読んで、いろいろな国のことを知ること
ができるところ。

子：5 年生のお姉さんにお話を読んでもらうのが
好き (と 1 年生の子)。

先生にも聞きました。

バ：ここは学校が休みの土曜日にも開いている
んですよ。運営は大変ですか？

先生：毎日 50 人以上が利用して忙しいけれど、
他の教員や 5 年生の生徒が 10 名ぐらいが手伝っ
てくれるので大丈夫です。

バ：図書室ができ、変わったことはありますか？

先生：ラオス語が良くできるようになりましたし、
何よりこういうインタビューをされて、子どもたち
ひとりひとりがきちんと返答や意見を言うことがで
けるようになりました。

チャ：何か、不満に感じることはない？

子 1：ちょっと狭いところ。同じ部屋で 2 つの活
動をやっているとうるさくなってしまふ。

チャ：1 月に新しいセンターが近くにオープン
するのよ。部屋も広いし、外で遊ぶ場所もある
から、楽しみにしててね。

講師にも、インタビューしてみました。

チャンシー：ここで教えて感じることは？

先生 1：子どもたちが成長していくのを見るのが
何よりも楽しいですね。だけど、小学校 1, 2
年ぐらいの子どもにも分かるように教えるのはとて
も難しいですね。

先生 2：工作の材料が、安くて手に入りやすい
もの、リサイクル品などを使ってやっているところ
がいいと思います。家に帰ってやることもできる
と思いますよ。

学校図書室とは？

ヴィエンチャン近郊の小
学校を中心に、空き教室
を利用して設けた図書室
です。

ラオスの小学校には教科
書以外の本がほとんどあ
りません。先生も、多くは
ほとんど本を読んだこと
がないという現実があり
ます。1995 年に当会ヴィ
エンチャン事務所のラオ
ス人スタッフの提案でプ
ロジェクトが始まり、現
在、約 100 校で運営されて
います。

建設費がかからず、書棚
と本を用意し、先生のト
レーニングをすることで
開設できます。活発に利
用されるには、継続的な
本の補充が大切。支援の
課題もここにあります。

子ども文化センター (CCC) とは？

子どもが遊び、学べる、
児童館的な施設で、図書
室と図画工作、民族音
楽、舞踊などの様々なプ
ログラムが設けられてい
ます。小中学生が対象
で、高校生になるとボラ
ンティアとして参加する
子どもたちも増えていま
す。

ラオスでは、音楽、体
育、図画工作などが行わ
れていない小学校が多
く、当会の発案により、
1994 年に設立されまし
た。運営主体はラオスの
情報文化省。会は 8 か所
について運営、人材育成
などの支援をしていま
す。現在、ラオス政府は
全国への普及を進めてい
ます。



ヴィエンチャン事務所スタッフによる読み聞かせ

子どもを、学校を、地域を元気に

「読書推進活動報告書」が語る図書配付の効き目

ラオスのこどもは、ラオス全国の小学校を中心に図書の配付などを行う「読書推進活動」を進めています。

このほど、2002年度にJICAとの開発パートナー事業で図書を配付した1都5県1特別区435校の図書担当教員による「読書推進活動報告書」の内容を集計・分析しました。

図書を受けとって、どんな効果があったのか、自由回答の集計をご紹介します。

「読書推進活動報告書」は、前年度に図書を配付したすべての学校に、図書の利用状況、図書配付の効果、現在の課題などを報告してもらうものです。この結果は、開発パートナー事業の中間評価⁽¹⁾のための貴重な情報となりました。

＜図書受領による効果＞

児童	ラオス語の能力が向上した	38%
	知識を得た	24%
	積極的になった	23%
	勉強ができるようになった	22%
	学校を休まなくなった	20%
	道徳心・判断力が向上した	11%
教員	授業がしやすく、工夫するようになった	8%
住民	読書に興味を持つようになった	7%

(自由回答・複数回答、全435校)

■学校教育の活性化

これらの回答から、子どものラオス語の能力が向上した結果、他の科目についても教科書の読解力と理解力が向上し、全体的に学力が向上するという図式が読み取れます。

また、本が読めるので学校が楽しみになったことに加えて、授業の内容が理解できることで学校生活も楽しくなって欠席しなくなった、とも言えます。

あわせて先生の質問に答えることができ、自分から手を挙げて発表するなど、子どもが積極的になっていることがわかります。さらに絵本に込められたメッセージを理解して道徳心が向上した、また環境問題など社会の課題に関心を抱くようになったとの報告もありました。

先生にとっても、授業に図書を活用することで説明が容易になり、授業の内容を工夫することで、授業の内容が豊かになっていることが推測できます。図書は先生の積極性向上にも役立っている、といえます。

こうして図書は子どもたちと先生の知識欲を高めるきっかけとなり、これまで板書と説明、ノートの筆記に頼っていた授業を改善し、学校教育の活性化に貢献しているといえましょう。

■地域への効果

地域への波及性も高く、実地調査⁽²⁾では、図書配付後に住民が資金や労力を提供して図書室に改装するなど、大人の理解と協力が高まっています。教育を受ける機会がなかった大人が、図書配付を契機に小学校卒業資格に挑戦している、という事例も聞きました。

このように、図書の配付と読書推進活動は学校と地域で着実に成果を上げていますが、活動が継続し読書の習慣が定着するには、まだ課題があります。特に、図書担当の先生が変更になった場合に、活動が中断してしまう例が見受けられました。

会としては、読書推進の人材育成、システム整備を進めていくために、

- ①学校内に図書委員会を設置する
- ②読書推進活動を特別活動⁽³⁾の項目に加える
- ③推進運動の担い手となる先生を育成する⁽⁴⁾

などの活動に力を入れていきたいと思えます。(近藤 知子)

(1) プロジェクト期間3年間の中間時点で行う前半の活動およびプロジェクト内容の評価、「ラオスのこども通信」31号で紹介

(2) 中間評価に際し、2県6校で読書推進活動の実施状況を調査した

(3) 図画、音楽などの総称、毎日午後実施

(4) 教員養成校で読書推進活動を指導

ヴィエンチャン県ロンケン小学校 図書室



プロジェクトの報告

2004年6月-10月

出版プロジェクト

●絵本

『シートンマノラー』（第2版）

初版は96年。ラオスの中編古典読み物。
作：シーサヴィ・スワンニー／絵：ディムカー・
スタヴォン／5,000部印刷（支援：JICA「開
発パートナー事業」）

新刊『詩で読む民話』

ラオスの民話や世界の童話、合計8作を詩
で著した作品集。

作：フンアルン・デンヴィライ／絵：ソンパヴァ
ン・ケオミンムアン／5,000部印刷（支援：JICA
「開発パートナー事業」）

●紙芝居

新刊『誰の穴かな』

2003年3月に実施した紙芝居コンクール大人
の部の最優秀作品。

作・絵：コンサワン・シーチャントーンティッ
プ／1,000部印刷（支援：キャノン㈱）

新刊『だれの役目』

同じく子どもの部の最優秀作品。

作・絵：セーンチャン／1,000部印刷
（支援：キッコーマン㈱・連合）

『森のおばけと汚ない水』（改訂版）

飲み水をテーマにした衛生教育紙芝居。

作・絵：ブンルート・シヴィサイ／2,000部印
刷（支援：国際ボランティア貯金）

『家のまわりの冒険』（改訂版）

トイレをテーマにした衛生教育紙芝居。

作・絵：ブンルート・シヴィサイ／2,000部印
刷（支援：国際ボランティア貯金）

読書推進プロジェクト

●図書箱・図書袋配付

10/21-23 チャンパサック県 図書を140校
に、図書袋を21校に配付。

（支援：JICA「開発パートナー事業」）

●学校図書室開設

指定募金・プロジェクト指定寄付により34か所
（幼稚園3、小学校24、中学校7）で開設す
ることができました。（数字は学校図書室の愛
称「ハクアン」の通し番号。寄付者名は敬称
略）

101 パクサン幼稚園・102 パクサン小学校・
103 パクサン中学校・104 パン小学校・105
ヴィエントン中学校・106 ターボック幼稚園、
107 ターボック小学校・108 ターパバー中高
校・109 ムアンコー小学校・110 ボリカン中高
校・111 サイサヴァン幼稚園・112 トンセン小
学校・113 ナコンサイ中学校・114 ナムトー

ン小学校・115 ナクワ小学校／ボリカムサイ県
（計15校：Canada Fund）

116 ナムオム小学校・117 キアットンゴン小
学校・118 パライボック小学校・119 ホアイミ
ーサン小学校／チャンパサック県（計4校：
GAPE）

120 ドンサンパイ小学校／ヴィエンチャン都
（東京海上火災保険㈱）

121 ポーンガム小学校／チャンパサック県、
122 ヴァンヴィエン小学校／ヴィエンチャン都
（計2校：故 上野年映）

123 チョンペット小学校／ヴィエンチャン都
（水野義弘）

128 ナーサイ小学校／ヴィエンチャン都、134
ラクハーシップソン中学校／ヴィエンチャン都
（計2校：三井住友銀行ボランティア基金）

132 メート小学校・133 ナーボー小学校・125
ナーファイ小学校／ヴィエンチャン都、126
モーソー小学校／ヴィエンチャン都、130
ラートカイ小学校・131 チョンペット中学校／
シェンクワン県（計6校：ベルマーク教育助成
財団）

127 ドンナーソック小学校／ヴィエンチャン都
（豊島福祉基金）

135 ターソンモー小学校／ヴィエンチャン都
（国際センターラオスとの協働）

129 パーン小学校／シェンクワン県

●国際センターラオスとの協働

学校建設や奨学金事業を行っている国際セ
ンターラオスの事業対象校で、当会が学校
図書室を整備する、という協働プロジェクトが
始動。10月8日、ヴィエンチャン都のターソ
ンモー小学校に第1号として「ハクアン135」
がオープンしました。今後継続的に図書室
を協働開設する計画です。

●教員養成学校における人材育成事業

8/4-9 サワンナケート県で教員養成校読書推
進講師養成セミナーを実施

10/25-29 シェンクワン県のカンカイ教員養成
校で読書推進セミナーを実施（支援：国際
開発救援財団）

子ども文化センター(CCC)プロジェクト

●指定募金・プロジェクト指定寄付によ る運営支援

2004年度ルアンパバンCCC、シーサタナー
クCCC、ゲンタオCCCの運営（三井住友
銀行ボランティア基金）

2004年7-12月の6ヶ月間、以下の12講座
の運営を運営を支援

ヴィエンチャンCCC：絵画・粘土細工・伝

統舞踊・工作・竹細工

サイヤブリCCC：伝統音楽・体育・織物・
工作・伝統舞踊・絵画

ルアンパバンCCC：伝統舞踊

（「こどもの未来募金」2003年度～2004年10
月計24口）

指定募金

年末「あとひといき！」キャンペーン
ご協力をお願いします！

●「もっともっと絵本募金」

一口1500円

あと33口で、

待望の絵本出版へ！

これまでの募金状況

2002年10月～2003年12月 158口

2004年1月～6月 62口

2004年7月～10月 47口

300口集まったら『数字ちゃんはどこ？』

（作・絵ブンルート）を出版します。小さ
な数字ちゃんがいるいろいろなところに隠れて
いるのを探して遊ぶ、幼児向けの絵本で
す。ぜひご協力ください。

●「こどもの未来募金」

一口12000円

あと28口で、

子ども文化センター(CCC)
の講座を来年6月まで運営で
きます！

ヴィエンチャンCCC：絵画・英語・粘土
細工・伝統舞踊・工作・読み聞かせ
サイヤブリCCC：手芸・伝統音楽・体育・
織物・工作・伝統舞踊・絵画・読み聞かせ

子どもたちを取り巻く環境が急速に動く
中、子ども文化センターの役割は年々重
みを増しています。将来を担う子どもたち
の活動を応援してください！（なお、講
座の指定は事務局にお任せください）

国内の活動

2004年6月-10月

イベント

ご来場、ご参加、ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

●食(ショック)！な世界発見「ラオス料理編」7/2 キッコーマンKCCホール

キッコーマン(株)との協働でラオス料理を楽しみながら活動を紹介しました。講師は当会代表チャンタソン。参加者32人 KCCギャラリー関連企画：7/2～31「ラオスの民族衣装展」写真提供：コリン・グラフトン

●ワールドカルチャーフェスティバル 7/27 キッコーマンKCCホール

「カフェめしでめぐる6つの世界」と題し、6か国の料理を楽しみながら国際協力活動に触れる、キッコーマン(株)、アサヒビール(株)とNGOの協働企画。

●麻布十番納涼祭り国際バザール

8/20～22 一の橋親水公園(東京)
記録的な猛暑の中、ケーンベツ(ラオス風カレー)・揚げ春巻き・ハーブ風味鶏唐揚げなどラオス料理を販売。ボランティア48名、留学生15名が大活躍。5年間好評を博したミーカティ(ラオス風ヌードル)がメニューから消え、お客さんのがっかりした声もありましたが、完売。売上は約140万円となりました。協賛：アサヒビール(株)／食材協力：文化堂西馬込店

●国際協力フェスティバル2004

10/2～3 日比谷公園(東京)
当会のボランティアと留学生によるラオスの紙芝居や絵本の読み聞かせに人だかりが出来る場面も。飲食ブースではハーブ風味鶏唐揚げなどを販売しました。2日目は土砂降りの中、『地球サポーター』のTV取材(俳優の仲村トオルさんがブースを来訪)と、『月刊クーヨン』の雑誌取材を受けました。ボランティア26名が参加、売上は約10万円でした。

●「ラオスの今・子どもたちの未来」

近藤知子スタッフ帰国報告会 10/16

ライフコミュニティ西馬込(東京)

ラオス駐在から帰国した近藤が、ラオスの子どもたちを取り巻く環境、グローバリゼーションの波に押されて変化するラオス社会を報告。参加者36名。「地道な活動を続けてきた20年の成果がしっかりと形になっている。大きな感動をもらった」「様々な国に存在するこのような問題にどう接していけばよいのか、その難しさを再認識した」などの感想が寄せられました。

ラオス語絵本プロジェクト

1人でも、日本全国どこにいても参加でき、企業や団体のイベントやボランティア体験としても企画可能なプロジェクト。2004年1～10月に約600冊がラオスへ送られました。まだまだ参加者募集中！お正月はコタツで絵本づくり！など、いかがでしょう？まずは「絵本リスト」をご請求ください。

●味の素グループ「ラオスの子どもたちにラオス語の絵本を送ろう！」7/8～29

味の素グループ従業員の社会貢献活動を推奨するキャンペーン(Citizenship Day)の一環として、日本語の絵本にラオス語の翻訳を貼る絵本作りに参加いただきました。従業員有志によるご協力で、合計45冊の絵本がラオス事務所に送られました。

●沖電気工業(株)「ラオス語絵本をつくってラオスへ送ろう」7/24

社員・OBのみなさん17人に加え、学習院女子大学伊藤ゼミのラオス研修事前学習で学生10人が参加。ラオスクイズ、代表チャンタソンの話、バナナの葉細工遊びの体験(腕輪づくり)を楽しんだあと、全部で60冊を仕上げました。絵本は学生のみなさんが8月にラオスへ運び、現地で小学生との交流にも活用されました。

クリック募金

●約30万クリック達成！

味の素「あしたのもとクリック募金」

5月～8月の4か月間、味の素のホームページ上で行うクリック募金の寄付先に、「ラオスの子ども支援」事業が選ばれ、多くの賛同者により、総額298,786円の寄

付金をいただきました。ラオスの学校図書室や子ども文化センターへの図書補充費として大切に活用させていただきます。ありがとうございました。

紙芝居

●日本の高校生も実演に協力！

コーンサワン作『いたずらハムくん』阪本一房 賞受賞 7/10 箕面手づくり紙芝居コンクール
ラオスから約40作品が応募、ジュニア部門4作品が入選、一般部門では3作品が佳作、1作品が実演による本審査へ。さて作者はラオス、実演をどうしよう？という時、当会を訪問された愛知県の黄柳高校大型紙芝居部の先生にご相談したところ、部員による代演を引き受けてくれました。一般部門『いたずらハムくん』は後藤彩香さんの代演で見事入賞。審査員の方からは「演技がうまかった」との評をいただいたそうです。東京事務所から応援に行けず、本当に残念です。

第3次中期3か年計画スタート

2004年7月～2007年6月

当会では昨年9月に前3か年計画の評価を合宿で行い、それをふまえて、ラオス事務所と協議を重ね、新しい中期計画を準備してきました。最終案のまとめに先立ち、会の現在の課題と今後目指す方向を共有するため、6月5日に日帰りで「合宿」を開催。ボランティア、スタッフ、理事の計18人が参加しました。

合宿では、「アカウンタビリティ」(一般には「説明責任」と訳される)を、活動者と支援者・日本人とラオス人・大人と子どもが活動のプロセスを共有するための基準と位置づけ、重視していくことを確認。事業面では、各プロジェクトで「子どもの参加」を意識すること、持続可能な事業のために公的なシステム化を働きかける一方、ラオス人担い手との活動理念の共有を進め、自立への道筋を具体化していこうと話し合いました。

<これまでの中期計画のテーマ>

98～00年度

事業：量から質へ／組織：「いつまで続ける？」

01～03年度

事業：システム化／組織：プロ化へ

04～06年度

事業：「現地化、自立」への道筋／組織：運営の質

第2回通常総会開催

8月7日(土)、第2回通常総会が活動会員23名、賛助会員4名の参加のもと、ライフコミュニティ西馬込で開かれました。

実質的に法人化後最初の年である第2期2003年度は、任意団体から法人へ、識字分野を中心とした「絵本を送る会」から、ラオスのこどもが抱える問題を包括的に考えてゆく組織、計画とルールに基づいた組織運営へと、転換の年だったことが報告されました。

この1年間は、JICAと展開する開発パートナー事業により、事業規模が拡大し、業務量が増えたこと、活動を実質的に支えるボランティアの活躍が目立ったこと、日本人スタッフの駐在により現地からの情報が充実し、活動の質が向上したなどの説明があり、第2期事業報告、会計報告が承認されました。

監査役からは、報告に対し、事業規模に対して人材配置が不足しているのではないかという指摘がありました。

さらに、活動を現地事務所主導としていくことを意識した新第3期中期計画(04～06年度)に則り、読書推進活動を担うラオス人の人材育成を重視した第3期2004年度事業計画案と収支予算案が説明され、承認されました。

この新中期計画は、運営の現地化を柱とするとともに、ラオス社会の急速な変化により、こどもたちを取り巻く問題が、文字に触れられないことを中心にするものから、「非行」「学校を卒業しても仕事が無い」などの都市型をも含むものとなり、会としてその変化に対応する組織作りの模索を含むものです。

総会の後半は、参加者の交流会がもたれ、ボランティア活動の説明や、貿易ゲームで世界の構造を学ぶイベントなどが続きました。

今年の総会の特徴は、今まであまり会の催しに参加いただくことのなかった方に、参加いただけたことです。様々な形で、会の支援者が広がっていることを実感した総会でもありました。

活動報告、会計報告などは別添2003年度活動報告書をご覧ください。

ボランティア掲示板



国際協力フェスティバルでの紙芝居実演

■打ち上げもおすすめて

脇田俊文(学生)

ボランティアをして1年になります。

「ラオスのこども」では、イベントの後、お疲れ様会をします。そんな中で感じるのは「ボランティア活動ってそんなに堅苦しくないじゃん」ってことです。

もちろんイベントの最中は、皆さんそれぞれ割り振られた仕事を一生懸命こなします。ときには汗だくになりながら、時には雨で足元がビショビショになりながらも、楽しく活動しています。これが現地ラオスのこどもたちのためになっているんだと思うと充実感も湧いてきますよね。

そして打ち上げでは、イベント中にお互い仲良くなった分、冗談を言い合ったり、活動とは関係ないことも喋ったりもします。ボランティアも学生から社会人、主婦、定年後の方など幅広く、それぞれの考えが聞けたり、貴重な経験となります。

以前、ボランティア活動のイメージは「活動に必要な下らない話は出てこない、目的のために黙々と活動する」というものでした。しかし、来てみると和気藹々とした自由な雰囲気になりました。事務局の方や留学生たちと一緒に食事に行くと、「今度はカラオケ行こうね」なんて言っています。

ぜひ一度ボランティアをして打ち上げに参加してみたいかながですか？きっと気の合う仲間も見つかると思いますよ。

■ラオスで絵本を読んでいる 子どもたちのように

井上皓太(学生)

今年5月のピーマイパーティーから活動に参加している。とはいえ、会場へ行き、任された仕事をし、イベントが終われば、自分の中で『いい経験が出来たな』と満足していた。それは自分の内側に向かった接し方であったようだ。

会のホームページを見て、自分が小さかった頃を思い出した。身の回りにある物全てが生き物のようで、冒険への入り口だった。本や絵本もそうで、一度入ると自分もその世界の住人になることができた。そして少しずつ大人になっていくのだ。そのような経験を積み重ねられるのは、私達にとって、朝起きて最初の息をするのと同じくらい幸せなことなのではないか。ふと、「ラオスのこども」の活動に参加する自分を別のところから見直せたように思えた。

知らないままにいることよりも、自分の未来が狭められてきたことを後になって知る方が残酷である。だからこそ会が今、ラオスの子どもたちに届けているものは、絵本とより多くの興味を見渡せる空間なのだ。

そしてボランティアの人々やラオス人留学生との出会いは新鮮である。私はラオスに行ったことはない。ラオスについて知識があるわけではない。今ラオスで絵本を読んでいる子どもたちのように、昔、自分も小さかった。そう思うだけで距離はずっと近づく気がする。今週末は、大田フェスタだ。

事務局より

東京事務所の動き

- 6/5 ラオスのこども合宿
- 6/8-18 FASID 研修 (赤井)
- 6/13 6月運営会議
- 6/14-29 ラオス出張 (チャンタソン)
- 6/18 JANIC 総会 (野口)
- 7/2-31 キッコーマン「多民族の伝統が息づく神秘の国・ラオスの民族衣裳展」
- 7/2 キッコーマン「食! (ショック) な世界発見」料理教室
- 7/11 7月運営会議
- 7/15 大田区国際交流団体懇親会
- 7/24 沖電気工業「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」
- 7/27 ワールドカルチャーフェスティバル
- 8/7 2004 年度通常総会・交流会
- 8/10-17 ラオス出張 (野口)
- 8/15 高輪教会バザー
- 8/20-22 麻布十番納涼祭り国際バザール
- 8/22 読書コミュニティフォーラム全国大会 (森)
- 8/22-29 南の子ども支援 NGO 能力強化海外研修 (小川)
- 9/12 9月運営会議
- 10/2-3 国際協力フェスティバル
- 10/8 いのりんぴっく柴又 (土井)
- 10/10 10月運営会議
- 10/16 近藤スタッフ帰国報告会
- 10/27 南の子ども支援 NGO 能力強化海外研修報告会 (小川)
- 10/28 大田区国際ボランティア貯金推進協会総会 (近藤・土井)
- 10/29-11/6 ラオス出張 (野口)

スタッフより

近藤知子です。

1年8ヶ月のラオス駐在を終えて、9月末に東京事務所に戻りました。日本人の駐在は9年ぶりということもあり、最初は何かと戸惑いましたが(ラオス人スタッフもさぞや...), 無事任期を終えることができたのも皆様からの励ましがあってこそ、と心から感謝しております。ラオスの社会はメコン川のように、一見緩やかですが意外と変化は激しく、目が離せません。今後は駐在経験を活かし、皆様にラオスと子どもの状況をお伝えしていきたいと思ひます。

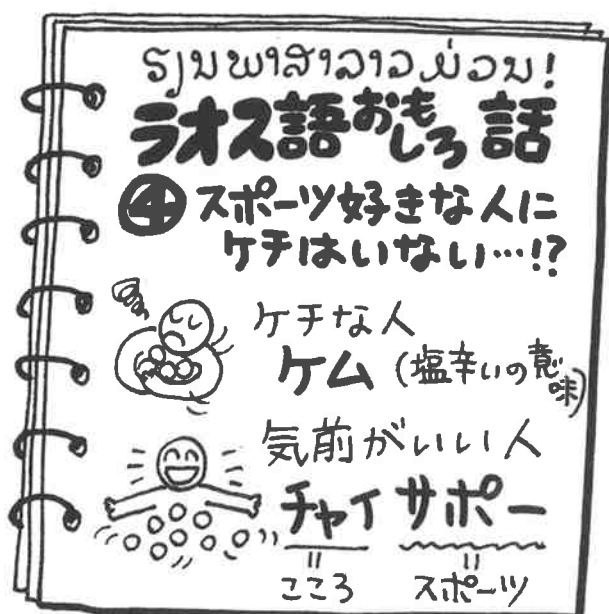
赤井朱子です。

9月よりラオス駐在となりました。東京では支援者、会員、ボランティアの皆様には大変お世話になりました。総会、麻布の直後に赴任ということで、皆様にはゆっくりごあいさつもできず、申し訳ありませんでした。これまで出張では何度もラオスに足を運んでいますが、現地に生活の拠点を移すとなると、また違ったラオスが見えてくるのでは、と思ひます。これからは、様々なラオス情報をお届けしていきます。よろしくお願ひします。

ヴィエンチャン事務所の動き

- 6/10 ハクアン120開設 (ヴィエンチャン都)
- 6/29 ハクアン122開設 (ヴィエンチャン都)
- 7/27-29 図書貸付セミナー (チャンバサック県)
- 7/30 ハクアン121開設 (チャンバサック県)
- 8/4-9 教員養成学読書推進講師養成セミナー (サワンナケート県)
- 8/5 学習院女子大学伊藤ゼミ一行受入
- 8/12・14 『地球サポーター』取材
- 8/17 ハクアン123開設 (ヴィエンチャン都)
- 8/24 まいまい塾ネットワークンググループ受入
- 8/26 うつくしま県民の翼(福島県国際協力・国際交流事業)一行受入
- 9/5 赤井スタッフ赴任
- 9/6 フィリピンのNGO「ルンドゥヤン」代表アイリーンさんが来訪
- 9/6-11 ハクアン101-103, 106-108 開設 (ポリカムサイ県)
- 9/18 近藤スタッフ帰任
- 9/20-24 ハクアン109, 110, 114, 115 開設 (ポリカムサイ県)
- 9/27-28 ハクアン132-134 開設 (ヴィエンチャン都)
- 9/30-10/1 ハクアン126, 127 開設 (ヴィエンチャン都)
- 10/4-9 ハクアン111-113, 104, 105 開設 (ポリカムサイ県)
- 10/8 ハクアン135開設 (ヴィエンチャン都)
- 10/13-14 ハクアン124, 125 開設 (ヴィエンチャン都)
- 10/19-24 チャンバサック県図書配付セミナー及び調査
- 10/22-24 ハクアン129-131 開設 (シェンクワン県)
- 10/25-29 カンカイ教員養成校読書推進セミナー (シェンクワン県)

*ハクアン=学校図書室



会員制度について

昨年の法人化に伴い、会員制度が新たに作られ、活動会員と賛助会員が設けられました。入会申込書をご請求ください。

活動会員 定款に定める会の活動目的に賛同し、積極的に活動に参加していただける方なら、どなたでも活動会員に登録することができます。活動会員は、年1回の総会で議決権があります。ボランティア保険加入費と通信費として、年会費1,500円を頂きます。

賛助会員 会費はありません。ご寄付、ボランティアなど、何らかの形でご協力くださった方が賛助会員です。郵便振込でご寄付の際に、賛助会員として登録させていただきます。登録を希望されない方は、郵便振込用紙の指定の場所にチェックを入れてください。また、郵便振込という形以外のご協力者の方の中で、賛助会員登録をご希望の方は、事務局まで入会申込書をご請求ください。

フィリピンで見た 「子ども参加」と「自立」

「南」の子ども支援NGO能力強化 5か年計画2004年度海外
研修 (8月 22-29 日)

小川直美 (理事・スタッフ)

ストリートチルドレン、児童労働、児童買春など大きな問題を抱え、それに取り組む現地NGOの層が厚いフィリピン。子ども支援の最前線から持ち帰ったおみやげは「今すぐ使えるノウハウ」というより「考えるヒント」である。いくつか紹介したい。

●「コミュニティ」 路上で暮らす子どもたちに働きかけ、母親たちにトレーニングを提供し、彼女たちを核に地域の組織化を促す。コミュニティごとに自分たちで工夫して現金収入を得、子どもたちを学校にやる。ここでは、地元NGOスタッフはソーシャルワーカーとして活躍している。

●「トレーニング」 ある団体が提供しているトレーニングは、癒しや気づきのレッスンから始まり、学びの段階を経て地域の運動のリーダーになるのがゴールだ。全部で10年にかかるという。トレーニングといっても、ノウハウやスキルだけでなく、個人の内面に働きかけ、その人の力を引き出そうとしている。

●2つの「自立」 あるNGOリーダーは、自立とは、人々が、社会を変える運動を自分で起こす力をつけることだと言う。

別の団体では、住民サービス事業の自立を目指す。住民参加でつくった計画の指標を達成し、終了すること(5~10年)が、支援者と受益者で予め合意された「自立」である。

さて、当会の新中期3か年計画の大きなテーマは、各プロジェクトの自立、ラオス事務所の現地化、それを支える東京事務所の強化である。おみやげはけっこう使えそうだ。



CCWA 協力センターの経験豊かなソーシャルワーカーたち。
(筆者はどれ?)

エチオピアでも、 やっぱり紙芝居は盛り上がった

森 透 (共同代表)



日本政府による途上国への教育協力の一環である「住民参加による学校運営のモデルづくり」にJNNE(教育協力NGOネットワーク)が協力するという取り組みで、10月12~23日、エチオピアでの事例の視察に当会から森が参加しました。

視察した小学校では、外国のNGOや地元のNGOの支援を受けた、住民による学校委員会が、校舎の建設と運営の資金を用意し、さらには児童の出席状況や先生の授業の様子をチェックすることにまで関わるなど、様々な事例があり、たいへん興味深いものがありました。外国のNGOが手厚く支援する学校は、1教室あたりの児童数が30~40人と少なく、日本と同程度ですが、支援が手厚い分、依存度が高いように感じられました。

ラオスでは、地元のNGOをつくることは認められておらず、住民参加による学校運営がどういったかたちで可能なのかはわからないのですが、支援のあり方について示唆するものがありました。

ラオスでも学校の視察は山の奥に入りこみ、川をまたぐのが常。エチオピアではランドクルーザー(四輪駆動の車)が草に隠れた水たまりに突っ込み(私は前の座席に頭をぶつけコブをつくりました)、立ち往生。すると、馬に乗った人々が現れ、私は生まれてはじめて馬にまたがって小学校に行ったのでした。

さて、視察だけではつまらないと思い、ラオスの人がつくった紙芝居「まるちゃんのともだち」を持参し、演じました。私が英語で、それをNGOのスタッフがアムハラ語(エチオピアの公用語)に、それを先生がさらに地元のオロモ語に直していきました。

子どもたちの反応のよさに、先生たちはびっくりした様子でした。そして、「ぜひ、これを取り入れたい!」との声。アフリカにも紙芝居が広がれ!というもくろみは、まず第一段階、成功でありました。